

図面作成要領

令和7年 9月 1日

静岡市 上下水道局 水道部

1. 適 用

- (1) この要領は、静岡市上下水道局（以下「局」という。）が発注する水道工事（導・送・配水管の新設、変更または撤去等）において、発注者又は委託者が作成する設計図面、および受注者が提出する竣工図面類の作成基準を定めるものである。
- (2) この要領に定めのない項目については、土木工事数量算出要領第6編「図面の作成基準」、国交省 CAD 製図基準、「土木製図通則（JIS A 0101）」、土木学会制定「土木製図基準」等、製図関係の規格規程に準拠するものとする。
- (3) 疑義が生じた場合については、監督員の指示によるものとする。
- (4) 項目の右隅に、「竣」と記載されている場合は竣工図のみ適用とし、「設」と記載されている場合は設計図面のみ適用とする

竣 2. 提出図面類の種類及び数量

- (1) 受注者は配管工事終了後、速やかに表－1 の竣工図面類を作成し、「竣工図・給水切替台帳図 提出書」及び「給水切替台帳」は紙面、「竣工図」は電子データを CD に保存し、完成届出書に添付して提出する。
なお、給水切替台帳図は給水切替を施工した各戸別に作成し提出する。
- (2) 発注者は、提出された竣工図を確認し、「竣工図」の電子データを水道部共有フォルダに格納する。
- (3) 発注者は、提出された「給水切替台帳図」を確認し、「竣工図・給水切替台帳図 提出書」と共に水道計画課 管路・施設更新係に提出する。

表－1

種 類	規 格	形式	提出	摘 要
竣工図・給水切替台帳図 提出書	A 4	紙面	1 部	図－6 参照 モノクロ出力
竣工図	A1	電子データ (PDF 及び sfc)	CD	A3 出力して文字が読めるように注意。
給水切替台帳図	A 4	紙面	1 部	図－7～10 参照 カラー出力

3. 図面類の規格と品質

- (1) 図面類はすべて A 版規格とし、仕上げ寸法は「竣工図・給水切替台帳図 提出書」及び「給水切替台帳図」については A 4 版、設計図面及び竣工図については A 1、A 3 版を原則とし、A3 判で印刷した際に判読できることを基本とする。ただし、監督員が認めた場合はこの限りではない。
- (2) 図面類の出力、印字等の際は、作図内容が明瞭に識別できるよう仕上げること。

4. 文字・記号及び線

- (1) 文字・記号及び線は、明瞭に記入をしなければならない。
- (2) フォントはゴシック又は標準ベクトルとする。
- (3) 文字サイズは 3.5mm、5 mm、7 mm、10 mm、14 mm、20 mmとする。
- (4) やむを得ない場合のみゴシック 2.5 mmまで可とする。
- (5) 文字高さごとの送り幅は下記のとおりとする。

文字高さ 2.5 mm	送り幅 0.5 mm
文字高さ 3.5 mm	送り幅 0.7 mm
文字高さ 5.0 mm	送り幅 2.0 mm
文字高さ 7.0 mm	送り幅 1.4 mm
- (6) 文字（数字を含む。）は、横書きを原則とする。
- (7) 仮名は平仮名を用いるのを原則とするが、品名・名称が外来語の場合は片仮名を用いる。
- (8) 数字はアラビア数字を用いる。
- (9) 管及び弁類等の表示記号は部材に応じて適切なものを用い、各部材の区別が明確につくものを用いる。

なお、給水管類の表示記号については、別に定める場合を除き「静岡市給水装置工事施工基準及び給水装置工事申込みに係る申請手続き」に準拠するものとする。
- (10) 作図に使用する線の種類は、管・弁栓類の施工区分（新設・既設）の区別が明確につくものを用いる。
- (11) 線の太さは「極太線(0.5 mm)、太線(0.25 mm)、細線(0.13 mm)」を使用すること。ただし、これによりがたい場合は、線幅の比率が 1:2:4 となる 3 種の太さを設定するよう努める。
- (12) 最小太さを 0.13 mmとする。
- (13) 寸法線や引出線は、0.13 mmとする。
- (14) CAD ソフトが V-nas の場合は、文字・線種・線の太さをプリセットされた規格とする。（フォントを「標準ベクトル」に変更すること、および改行幅を修正することは可とする。）
- (15) 埋設物件の色分けは下記のとおりとする
道路管理者：青、電力：オレンジ、通信：ピンク、既設水道：シアン
下水道：茶色、ガス：緑

5. 寸 法

- (1) 寸法は、形状及び位置の完成寸法を示すものとし、単位は、別に定める場合を除き m 及び mm を原則とする。

竣 6. 基礎データ

- (1) 竣工図面類作成時には、当該工事着手時に担当監督員から貸与された図面データを基に、配管工事完了後に工事完成図を作成し、担当監督員の確認を受けて担当監督員から貸与された図面データを使用するものとする。

竣 7. 竣工図・給水切替台帳図 提出書

- (1) 本管工事の受注者は「竣工図チェック表」(図6)に工事名、受注者名、配管業者名を記載する。受注者欄には現場代理人名、配管業者欄は担当者名を記入する。提出前に表紙内のチェック項目を確認のうえ受注者チェック欄を埋める。

竣工図提出後、担当課で内容を確認後、発注者チェック欄を埋め確認欄に押印する。

8. 設計図面・竣工図面 記載内容 (図 - 1 参照)

(1) 標 題

- ① 標題は、適当な大きさで、図面の右下端に配置する。
② 標題には、工事名、図面名称、縮尺、図面葉数、発注者名を記入する。
竣 ③ 欄外へ受注者名及び配管業者名を記入する。
④ 欄外に A1=100% A3=50%と記入する。

(2) 各種図面の配置

- ① 平面図、配管図、横断図は同じ図面内にレイアウトすること。また、配管図は平面図と同じ方向に配置する。
② 平面図と配管図が同一図面にレイアウト不可能な場合は、配管図を平面図と同じ方向になるように配置し、方位を記載する。

(3) 案内図

- ① 目印となる学校や河川等が入るよう配慮した大きさとし、図面の右上端に配置する。
② 工事施工箇所を確認できる縮尺を 1 : 5000 以下の地形図を用いる。
③ 方位、区町名、道路・河川・鉄道・目標となる建物等の名称を記入する。
④ 工事施工箇所は、太線や囲い等で記入し明示する。

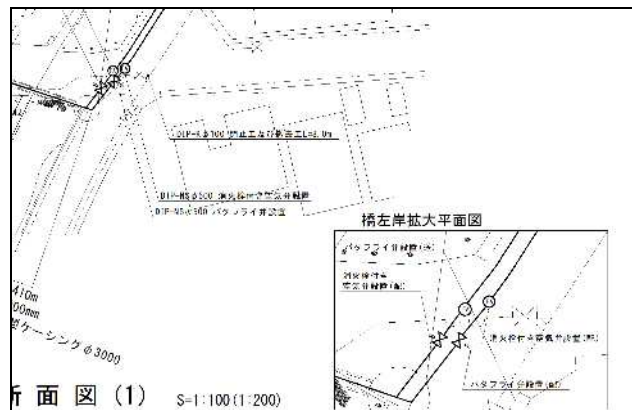
(4) 平面図

- ① 平面図は、A3版で明瞭な縮尺とし、縮尺 1 / 500 以下で作図する。

- 設** ② 平面図には、地形のほか、方位、区町名、測点、道路・河川・鉄道・目標となる建物等の名称、他占用物件、新設管及び附属具類 (給水装置含む)、仮

設管、既設管及び附属具類（給水装置含む）、給水切替を実施した箇所の整理番号をあわせて記入する。

- 竣 ③ ②について、竣工図は、撤去済の仮設管および他占用物件は記載しない。
- ④ 設置する弁栓類および施工する管の接続箇所を明確に記載する。とくに、管が幅輻する場合は部分的に拡大した詳細平面図や弁栓類の引出線に管路用途を記載するなど、誤読を防止する



図－ 1 詳細平面図 記載例

- 竣 ⑤ 既設管を残置（充填もしくは空管）する場合は、別途平面図を作成し、平面図上の引出線に「残置管」（充填した場合）もしくは「休止管」（空管の場合）、施工年度、管種、口径、残置位置（オフセット）（試掘、消火栓撤去、仕切弁撤去等で把握した既設管の位置）を記載する。
- 竣 ⑥ 他占用物件・既設撤去管・仮設管（撤去済の場合に限る）は平面図上に記載しない。
- ⑦ 街路事業のように道路形態や計画高さが変更となる場合、計画線形のオフセットや計画基準高の土被りを記載する。また、道路完成年度が数年後の場合は、しゅん工図にも現況土被り・オフセットを記載する。
- ⑧ 測点は、原則として起終点、埋設位置変化点、起点から 20m 毎に記入する。
- ⑨ 新設の導・送・配水管（以下「本管」という。）及び附属具類には、形状寸法（管種、継手の種類、口径）、布設位置（オフセット、土被り）を記入する。
- 竣 ⑩ アラミド外装ポリエチレン管（三井金属エンジニアリング）やポリアリレート繊維補強管（古河電工）等の一社のみで製造している管種の場合は、平面図上に「外装ポリエチレン管（○社製）布設工」と、製造社名を記載する。
- ⑪ 既設本管及び附属具類には、形状寸法（管種、継手の種類、口径）、布設位置（土被り）、竣工図番号を記入する。
- ⑫ オフセットは、分岐箇所、取合い箇所、測点箇所について記入し、地上から目視で確認可能な弁栓類については省略可とする。
なお、記入例を下記に示す。
- ⑬ 土被りは、取合い箇所、測点箇所について記入する。

なお、記入例を下記に示す。

$$\begin{array}{rcl} \frac{1.20}{0.80} & \leftarrow & \text{オフセット} \\ & \leftarrow & \text{土被り} \end{array}$$

図－ 2 オフセット土被り記載例

- ⑭ 給水装置には、新設管の形状寸法（管種、口径）、接続する既設管の形状寸法（管種、口径）を次のとおり記入する。

PP φ 20 ← 新設管形状寸法
(LP φ 20) ← 既設管形状寸法

図－ 3 給水装置記載例

(5) 横断面図

- ① 横断面図は、横断面変化点等について適宜作図する。
- ② 横断面図は、対象箇所が明確となるよう作図する。
- ③ 横断面図は、任意の縮尺で作図する。
- ④ 横断面図には、道路形態のほか、新設本管、他埋設物をあわせて記入する。
- ⑤ 道路形態には、形状寸法（道路幅員、側溝寸法等）を記入する。
- ⑥ 新設本管には、形状寸法（管種、口径）、布設位置（オフセット、土被り）を記入する。
- ⑦ 他埋設物には、埋設物名、形状寸法（管種、口径等）、埋設位置（オフセット、土被り）を記入する。

なお、既設の不用管・残置管が確認された場合には、当該管についても記入する。

- 竣 ⑧ 試験掘を実施した場合には、実施測点を記入のうえ、当該箇所の横断面図を作図する。
- ⑨ 新設管とその他埋設物を明確に区別し記載する。

(6) 配管図

- ① 配管図は、縮尺 **Free** とする。
- ② 配管図には、配管のほか、使用部材名、測点をあわせて記入する。
なお、配管には新設本管に加えて、取合い箇所の既設本管も記入する。
- ③ 使用部材名には、形状寸法（管種、口径、延長等）をあわせて記入する。
- ④ 同一部材が連続して配管される場合は、原則として省略記号等は用いず、全部材について記入する。
- ⑤ 直管には、各管種・口径につき、少なくとも 1 箇所、有効長を記入する。
- ⑥ 測点は、原則として起終点、埋設位置変化点、起点から 20m 毎に記入する。

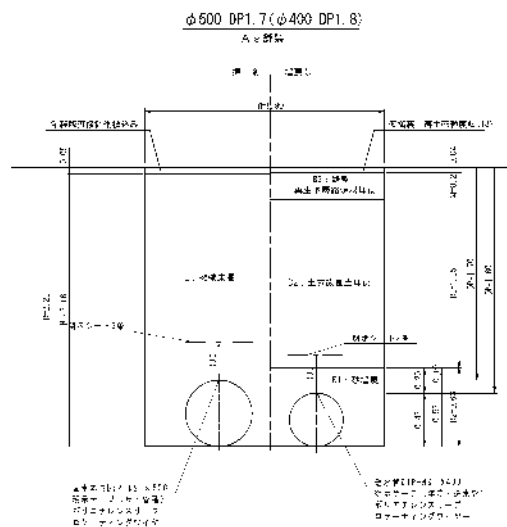
- ⑦ 街路事業のように道路形態や計画高さが変更となる場合、計画線形のオフセットや計画基準高の土被りを記載する。また、道路完成年度が数年後の場合は、竣工図にも現況土被りを記載する

(7) 配管詳細図

- ① 配管詳細図は、他埋設物の上越し・下越し等、標準土被りから変化する箇所について作図する。
- ② 配管詳細図は、対象箇所が明確となるよう作図する。
- ③ 配管詳細図は、縮尺 **Free** とする。
- ④ 配管詳細図には、配管のほか、使用部材名、他埋設物をあわせて記入する。
- ⑤ 使用部材名には、形状寸法（管種、口径、延長等）をあわせて記入する。
- ⑥ 配管には、布設位置（土被り）を記入する。
- ⑦ 他埋設物には、形状寸法（管種、口径等）、埋設位置（土被り）を記入する。
- ⑧ 他埋設物の配管が最も近接する箇所の離隔を記入する。

(8) 土工断面図

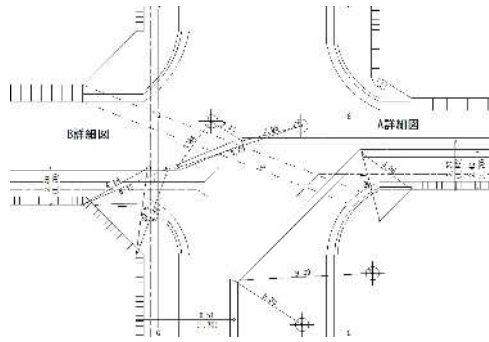
- ① ロケーティングワイヤー、明示テープ(年度・(送水管・導水管))、明示シートを引出線で記入する。明示シートについては管上 30cm の寸法線も記載する。



図ー 4 土工断面図記載例

竣 (9) 3点オフセット図

- ① 平面図上に記入せず、別途オフセット図を作成する。
- ② 1/200～1/100 とし、基点とした構造物が明確にわかるようにする。
- ③ 拡大した箇所がどこかを特定できるよう、平面図又は位置図に該当箇所を示す。



図ー 5 オフセット図 記載例

(10) 舗装構成図

- ① 舗装構成図は、任意の縮尺で作図する。
- ② 舗装構成図には、舗装形態のほか、使用資材名をあわせて記入する。
- ③ 舗装形態には、形状寸法（層厚）を記入する。
- ④ 複数の舗装区分がある場合には、対象路線が明確となるよう作図する。

竣 9. 給水切替台帳図（図ー7～10 参照）

(1) 標 題

- ① 標題は、適当な大きさと、図面の左上端に配置する。
- ② 標題には、工事名、整理番号、住所、標識番号（関連標識番号を含む）、受注者名を記入する。
- ③ 標識番号（関連標識番号を含む）が枠内に収まらない場合は、枠下に記載する。枠下にも収まらない場合は、別紙に記載し台帳に添付する。

(2) 平面図

- ① 給水装置工事基準の表示記号及び線種を遵守する。
(特に逆止弁についてメーター前後の設置位置が明確にわかるよう記載する。)
※分岐本管：黒・一点鎖線、新設給水管：赤・実線
既設給水管：黒・破線 等
- ② 平面図は、任意の縮尺で作図する。
- ③ 平面図には、方位(原則北を上にして作図)、道路形態、道路名称、家屋外形、新設給水装置、分岐本管を記入する。
- ④ 道路形態には、形状寸法（道路幅員、側溝寸法等）を記入する。
- ⑤ 使用部材名（継手部材除く）には、形状寸法（管種、口径、延長等）をあわせて記入する。
- ⑥ 分岐位置のオフセット(3点から測定)について記入する。
- ⑦ 分岐本管には、形状寸法（管種、口径）、布設位置（オフセット、土被り）を記入する。
- ⑧ 分岐位置付近に消火栓、仕切弁等がある場合は、そこからの分岐位置までのオフセットを記入する。(分岐が複数ある場合は、消火栓、仕切弁等に最も

隣接する分岐についてのみ記入する。)

- ⑨ その他、給水管布設状況に応じて適宜記入する。

(3) 断面図

- ① 断面図は、任意の縮尺で作図する。
- ② 断面図には、道路形態、家屋外形、新設給水装置、分岐本管、他埋設物を記入する。
- ③ 道路形態には、形状寸法（道路幅員等）を記入する。
- ④ 分岐本管の形状寸法(管種、口径)、埋設位置(オフセット、土被り)を記入する。
- ⑤ 給水管は、配管状況(断面形状)、埋設位置(オフセット)を記入する。(道路上で接続している場合は分岐本管から既設管と接続した箇所までのオフセット、本管分岐から民地内の第一止水まで取替した場合は官民境から第一止水までのオフセットを記入)
- ⑥ 他埋設物には、埋設物名、形状寸法（管種、口径等）、埋設位置（オフセット、土被り）を記入する。
- ⑦ その他、給水管布設状況に応じて適宜記入する。

(4) 配管図

- ① 分岐本管には、形状寸法(管種、口径)、土被りを記入する。
- ② 使用部材(継手部材除く)には、形状寸法(管種、口径、延長等)を記入する。
- ③ 既設給水管との接続部については、既設管の管種、口径を記入する。(新設管と既設管の管種が違う場合は、その接合部材を記入する。)
- ④ その他、給水管布設状況に応じて適宜記入する。

ファイル番号

総括監督	主任監督	担当監督	補助者

令和 年 月 日

竣工図・給水切替台帳図 提出書

工 事 名 :

上記工事について、静岡市土木工事共通仕様書第15編1-14-1のとおり竣工図を提出します。

受 注 者 :

現場代理人 :

配 管 業 者 :

担 当 者 :

工事
図
表

【竣工図チェックリスト】

- ☐ 各路線ごとの管種、口径がはっきりわかりますか？
- ☐ 占用位置、土被り、3点オフセットは変換点ごとに平面図へ記入しましたか？
- ☐ 支障物件と伏越配管の両方の土被りがわかる配管詳細図がありますか？
- ☐ 接続箇所について、既設管の管種口径および溝切の有無をはっきりと図示しましたか？
- ☐ 制御バルブがある場合、図示しましたか？また、ブロック名は記入しましたか？
- ☐ 給水切替先整理番号は確認しましたか？
- ☐ 受注者名および配管業者名を図面右下へ記入しましたか？
- ☐ ロケーティングワイヤー、ポリスリーブ、明示シートなど、管以外の施工状況も図示しましたか？
- ☐ 既設管を残置した場合、残置管（休止管）用の平面図を作成しましたか？
- ☐ 提出データはsfcとPDFの2種類がCDに保存されていますか？

異
議
表
示

【給水切替台帳図チェックリスト】

- ☐ 流用前の内容が残っていませんか？
- ☐ 工事名は確認しましたか？（要確認：年度、番号、「債」、「外」、「替」）
- ☐ 標識番号は8桁表記になっていますか？（〇ー〇〇〇〇〇〇〇）
- ☐ 関連標識番号は全て記載しましたか？
- ☐ 配水管や代用管だった場合は、元の表記を使用しましたか？（例：C-113 H10 116N 代用管）
- ☐ 住所がマッピングと台帳で合っていますか？（〇丁目、番地など）
- ☐ 給水切替工事部分（管種・口径・寸法）が朱書きされていますか？
- ☐ 給水切替の口径は現場及びマッピングと合っていますか？（口径が途中で変わる場合は要注意）
- ☐ 給水切替のオフセットは現場状況とあっていますか？（斜辺が一番長くなっているか）
- ☐ 平面図と横断面図で寸法の整合は確認しましたか？
- ☐ 関連標識番号（切替工事箇所の下流にあるメーターの標識番号）の記載はありますか？
- ☐ マッピングに記載された給水管を全て切替しましたか？
- ☐ 切替工事を行わず、既設の給水管を廃止した箇所の廃止届を出しましたか？

給水切替 〇件 （内、鉛管取替 〇件）	給水廃止： 〇件
------------------------------	-------------

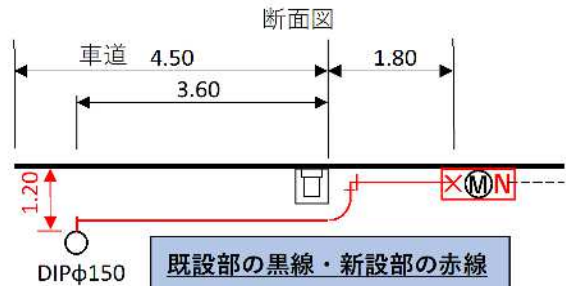
図－6 竣工図・給水切替台帳図 提出書

令和〇年度 水道〇〇〇第〇〇号 〇区〇〇水道管布設及び布設替工事

整理番号	〇
住 所	〇区〇〇 〇〇-〇〇
標識番号	〇-〇〇〇〇〇〇〇〇
受注者名	株式会社〇〇建設
配管業者	株式会社〇〇設備
鉛管取替	有 ・ 無

※関連番号が枠内に記載しきれない場合は枠下もしくは別紙に記載

各部材の表記は下記のとおり
 止水栓類：×
 逆止弁類：N
 メーター：M
 逆止弁付ボール式伸縮止水栓：N
 メーターボックス：□



既設部の黒線・新設部の赤線
 2色のみ使用
 分岐本管：一点鎖線
 新設給水管：実線
 既設給水管：破線

配管図

接続した既設管の
 口径・管種を記載

配管延長を記載

サドル付き分水栓
 φ150×φ20

DIPφ150 DP=1.20

PPφ20 〇.〇m

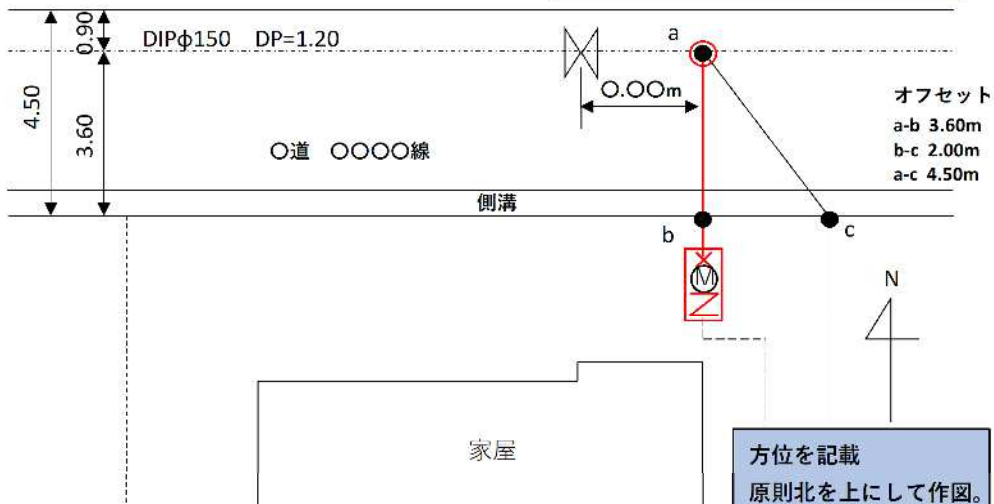
PPφ20 〇.〇m

PPφ20

ボール式伸縮止水栓φ20
 逆止弁φ20
 量水器φ20
 メーターボックスφ20用

平面図

分岐付近に仕切弁、消火栓がある場合は、オフセットを表示する。



方位を記載
 原則北を上にして作図。

注 布設した給水管の延長について断面図・配管図・平面図・オフセットにて辻褄が取れていることを確認すること。

赤着色部について布設した延長程度であることを確認すること。

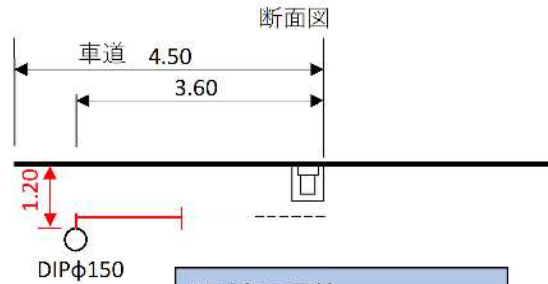
図－7 給水切替台帳図記載例
 (サドル分水栓～第一止水(メーター)の場合)

令和〇年度 水道〇〇〇第〇〇号 〇区〇〇水道管布設及び布設替工事

整理番号	〇
住 所	〇区〇〇 〇〇-〇〇
標識番号	〇-〇〇〇〇〇〇〇〇 ※関連番号も記入
受注者名	株式会社〇〇建設
配管業者	株式会社〇〇設備
鉛管取替	有 ・ 無

※関連番号が枠内に記載しきれない場合は枠下もしくは別紙に記載

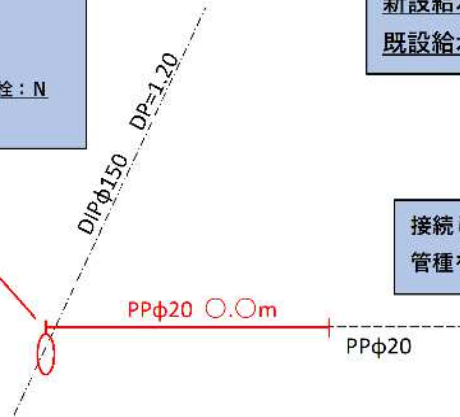
各部材の表記は下記のとおり
 止水栓類：×
 逆止弁類：N
 メーター：
 逆止弁付ボール式伸縮止水栓：N
 メーターボックス：



既設部の黒線・
 新設部の赤線
 2色のみ使用
 分岐本管：一点鎖線
 新設給水管：実線
 既設給水管：破線

配管図

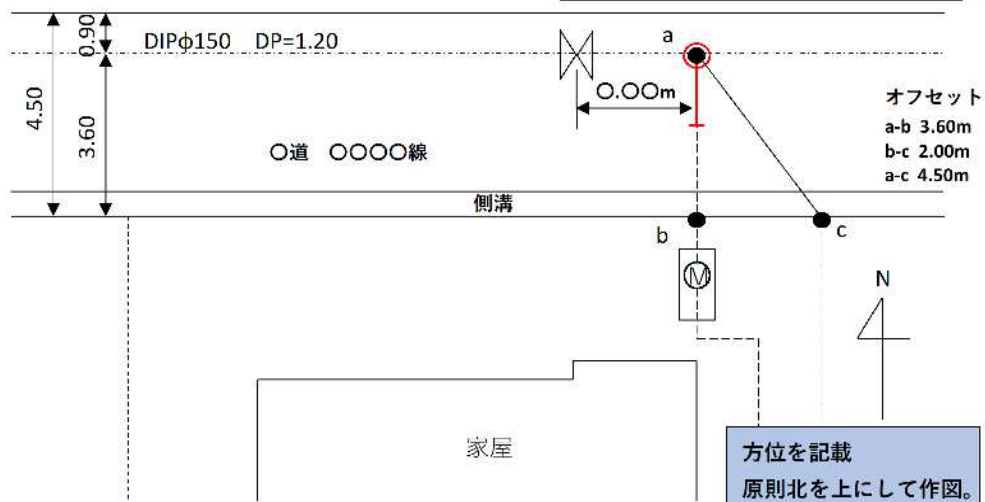
サドル付き分水栓
 $\phi 150 \times \phi 20$



接続した既設管の口径・
 管種を記載

平面図

分岐付近に仕切弁、消火栓がある場合は、オフセットを表示する。



方位を記載
 原則北を上にして作図。

注 布設した給水管の延長について断面図・配管図・平面図・オフセットにて辻褄が取れていることを確認すること。
 赤着色部について布設した延長程度であることを確認すること。

図－８ 給水切替台帳図記載例
 (サドル分水栓～道路上接続の場合)

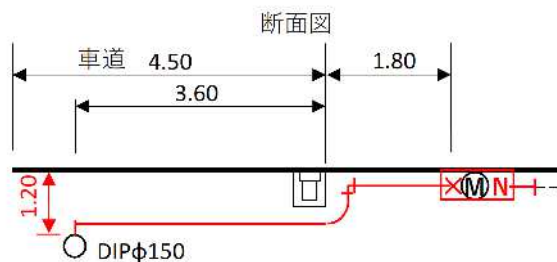
令和〇年度 水道〇〇〇第〇〇号 〇区〇〇水道管布設及び布設替工事

整理番号	〇
住 所	〇区〇〇 〇〇-〇〇
標識番号	〇-〇〇〇〇〇〇〇〇
受注者名	株式会社〇〇建設
配管業者	株式会社〇〇設備
鉛管取替	有 ・ 無

※関連番号が枠内に記載しきれない場合は枠下もしくは別紙に記載

各部材の表記は下記のとおり
 止水栓類：×
 逆止弁類：N
 メーター：M
 逆止弁付ボール式伸縮止水栓：N
 メーターボックス：□

サドル付き分水栓
 $\phi 150 \times \phi 20$



配管図

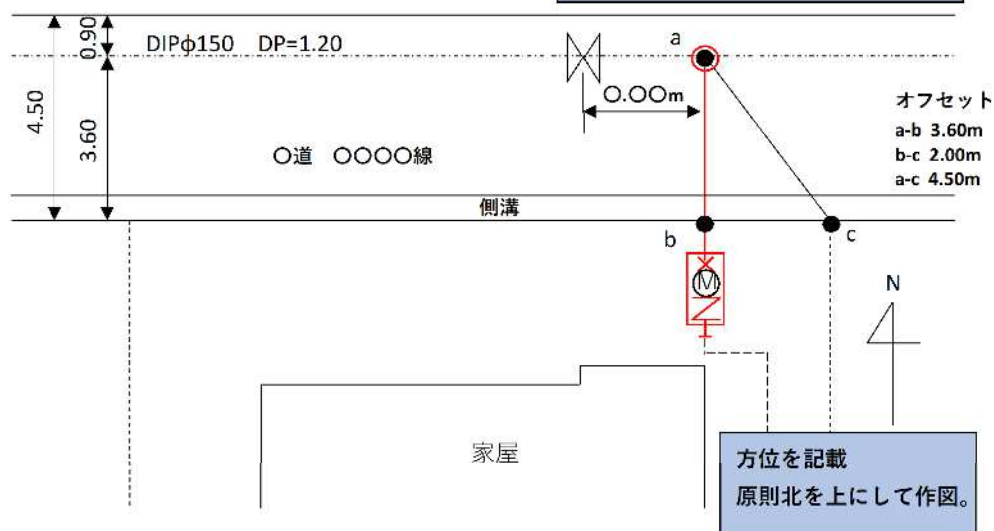
既設部の黒線・新設部の赤線
 2色のみ使用
 分岐本管：一点鎖線
 新設給水管：実線
 既設給水管：破線

新設管と既設管が異種である場合、既設管との接合部材を表示する。
 PVジョイント、HIソケット等

配管延長を記載

平面図

分岐付近に仕切弁、消火栓がある場合は、オフセットを表示する。



注 布設した給水管の延長について断面図・配管図・平面図・オフセットにて辻褄が取れていることを確認すること。
 赤着色部について布設した延長程度であることを確認すること。

図－9 給水切替台帳図記載例
 (サドル分水栓～第一止水(メーター)の場合(新設と既設が異種管))

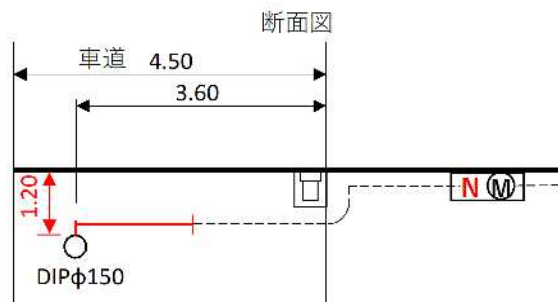
令和〇年度 水道〇〇〇第〇〇号 〇区〇〇水道管布設及び布設替工事

整理番号	〇
住 所	〇区〇〇 〇〇-〇〇
標識番号	〇-〇〇〇〇〇〇〇〇 ※関連番号も記入
受注者名	株式会社〇〇建設
配管業者	株式会社〇〇設備
鉛管取替	有 ・ 無

※関連番号が枠内に記載しきれない場合は枠下もしくは別紙に記載

各部材の表記は下記のとおり
 止水栓類：×
 逆止弁類：N
 メーター：M
 逆止弁付ボール式伸縮止水栓：N
 メーターボックス：□

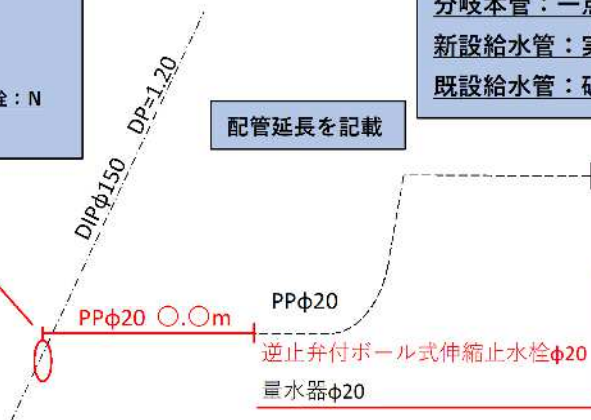
サドル付き分水栓
 $\phi 150 \times \phi 20$



既設部の黒線・
 新設部の赤線
2色のみ使用
 分枝本管：一点鎖線
 新設給水管：実線
 既設給水管：破線

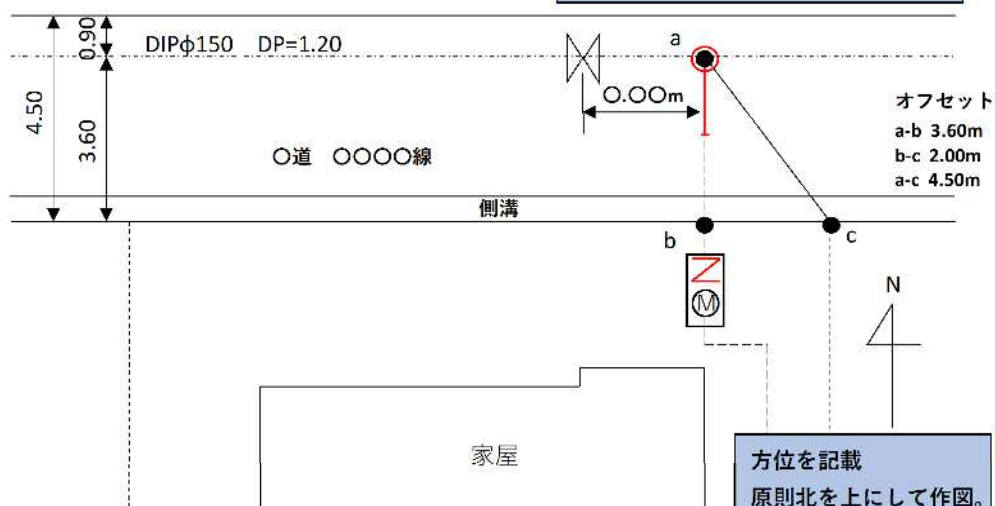
配管図

配管延長を記載



平面図

分枝付近に仕切弁、消火栓がある場合は、オフセットを表示する。



注 布設した給水管の延長について断面図・配管図・平面図・オフセットにて辻褄が取れていることを確認すること。
 赤着色部について布設した延長程度であるかを確認すること。

図-10 給水切替台帳図記載例

(サドル分水栓～道路上接続(+逆止弁付伸縮止水へ取り替え)の場合)